

□淀川水系流域委員会 第 32 回猪名川部会 総括メモ

■治水の課題

○狭窄部開削

開削の効果について正確に検証する必要がある

○堤防強化

- ・無堤地区は下流への安全弁として働いていたが、築堤によってこれが失われた。無堤地区の治水安全度を上げたことで下流の安全度は下がっている実態を認識する必要がある。
- ・輪中地区の堤防強化については、越水対策を施して欲しい。
- ・破堤しにくい堤防の築造を考える必要がある。

○中州の掘削

- ・中州は環境上さまざまな機能を果たしているので、掘削箇所や方法について十分に検討する必要がある。また、高水敷を切り下げて緩斜面にすることも考慮すべきだ。

○その他

- ・超過洪水への対応についても考えておく必要がある。
- ・内水災害への配慮も必要である。排水ポンプの設置についても検討してみるべきではないか。
- ・橋梁がある箇所については、橋の掛け替えは非常に難しいので、溢れても壊滅的被害にならない対策が必要である。
- ・猪名川は管理主体が国、府県、市で分かれている。流域全体で考え、国、府県、市の連携が重要である。
- ・一庫ダムの但し書き放流がある。狭窄部があるため放流が制限されている。対策を考えておかないといけない。
- ・余野川ダムは当面実施しないことになっているので、余野川ダムに期待しない治水についても問題が残されている。

■環境の課題

○保全と自然再生事業

- ・猪名川には手を入れることによって良くなる環境がある。そういう箇所の保全を課題とすべきである。河原環境の復元・再生が大きな課題だろう。

○横断方向と縦断方向の連続性の確保

- ・河水敷の切り下げも含め、横断方向の連続性を確保することを考慮する必要がある。
- ・堰の改築や機能的な魚道の設置によって水生生物の移動障害を除去し、縦断方向の連続性を確保することが課題である。

○外来種対策

- ・単に外来種を駆除するだけではなく、駆除した後にどういう自然を再生しようとしているのかを考えておくことが重要である。
- ・外来動物の生息数の把握と影響の実態調査が必要である。守るべき場所を決め、優先的に外来種対策を進める戦略も必要である。

○汽水域

- ・神崎川を含めて考えることが必要である。猪名川には汽水域に特性があることを忘れてはならない。

■利水の課題

- ・利水状況の精査が必要である。特に猪名川の農行利水に関する検討がほとんどできていない。

■利用の課題

○河川敷の利用

- ・川らしい利用をするという基本理念があるにもかかわらず、グランド等の過剰利用が進んでいる実態を改善する方向で対応する必要がある。
- ・河川保全利用委員会や河川レンジャーについて、河川管理者から流域委員会に定期的に報告してもらえれば意見を言える。フィードバックが必要である。

■ その他

- ・環境委員会ははじめ各種委員会に流域委員会に口出しをするのはよくないが、役割分担は必要である。情報は公開し、お互いに反映する必要がある。
- ・井堰の改築等の解決に向けて農業用水の問題をきちんと取り上げないといけない。これまでは河川管理者と農業用水管理者との対話がなかったが、対話する仕組みづくりに取り組むべきである。
- ・今後は大阪湾、瀬戸内海まで視野を広げた検討が必要である。
- ・猪名川上流部の住宅開発地からの流出抑制を考える必要がある。
- ・安威川ダムについてもほとんど議論されていない。国の補助金制度についても議論されていない。国と地方の関係についても議論する必要がある。

以上